



拾遺和歌集 上

都留文科大学附属図書館所蔵



吉野の山峯より... 素性法師

新玉乃年... 源 順

天曆序時... 平祐舉

歌... 續人

我家の梅... 天曆十歲二月廿九日

中納言報志

春と云く

後醍醐天皇... 徳治元年... 建武元年...

管とよと侍る

大伴家持

梅乃云... 梅平人磨

梅... 梅平時宣

梅... 梅平時宣

梅... 梅平時宣

梅... 梅平時宣

梅... 梅平時宣

梅... 梅平時宣

天の御心... 梅平時宣...

大中臣能宣

春風吹く梅の香を
人の心も入る
かきつる

白い春風も梅の香色はあやめ
かきつる
かきつる
かきつる

扇風子

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

額

青柳の香の中糸より合て梅の香も
かきつる
かきつる

淡人

急な春風も梅の香の糸の香も
かきつる
かきつる

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

あつてはせ

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

額

吉野の絶は梅の香の糸の香も
かきつる
かきつる

天曆九年丙寅の春令

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

額

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

中官の家百葉集の中

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

額

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

清原之輔

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

年乃

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

賢乃御席風

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

春風

あつてはせも増す音梅の糸がうりて
かきつる
かきつる

春の日の光

春の日はまのそきさつそのまはつし

鶯

直宗元

春の日の光

春の日はまのそきさつそのまはつし

兼平四年中

齋宮内侍

春の日の光

春の日はまのそきさつそのまはつし

宰相中将

直宗

春の日はまのそきさつそのまはつし

兼平

春の日はまのそきさつそのまはつし

鶯

直宗

春の日はまのそきさつそのまはつし

直宗

春の日の光

春の日はまのそきさつそのまはつし

兼平

春の日はまのそきさつそのまはつし

鶯

直宗

春の日はまのそきさつそのまはつし

兼平

春の日はまのそきさつそのまはつし

鶯

直宗

春の日はまのそきさつそのまはつし

鶯

直宗

春の日はまのそきさつそのまはつし

兼平

春の日はまのそきさつそのまはつし

兼平

春の日はまのそきさつそのまはつし

鶯

直宗

春の日の光

法華經のるるもあはれ梅を以つて人曰我も梅の花

幕風月 歌一らあ 乙女一人ありあ

乙女果てはつと之の世を去るはあてに乃そに成衆

延喜御時春法乃の世御命合乃歌

相毎に歌をくちの庭梅をたふれどもあはれ梅の花さけ

いささか人小侍さるあはれ梅の花さけ 惠慶法師 梅の花さけ

海客あはれ梅をいぬすも風をたふれ 小乃さるのりては梅風 法一歌

春法一歌ぬを梅をあはれもあはれ梅をあはれ 亭子院 奇合に

梅をたふれ風をさるあはれもあはれ梅をたふれ 歌一らあ

天曆御時奇合 小式命婦 大曲

あはれ梅をたふれ風をさるあはれもあはれ梅をたふれ 歌一らあ

春法一歌ぬを梅をあはれもあはれ梅をあはれ 源順

開手とあはれ梅をたふれ風をさるあはれもあはれ梅をたふれ 源順

ふ吹の花乃書つてあはれ梅をたふれ風をさるあはれもあはれ梅をたふれ 源順

おもしろ梅をたふれ風をさるあはれもあはれ梅をたふれ風をさるあはれもあはれ梅をたふれ 源順

幕風月

乙女一人ありあ

延喜御時

相毎に

いささか

海客あはれ

春法一歌

梅をたふれ

天曆御時

あはれ梅

春法一歌

開手とあ

ふ吹の花

おもしろ

梅をたふ

源順

真子院の奇合

坂上是則

花の色はさうらりさうらりと鏡山まよりの海のわらわらゆるり

源入三三三

春の露をまじりてはさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

延喜寺の東宮の屏風

風吹くはさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

同 正時再次の屏風

花の色はさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

同 二月の月宿るはさうらりさうらりと

常よりさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

春の露をまじりてはさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

延喜寺の東宮の屏風

風吹くはさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

拾遺和奇集卷第二

夏

天曆の神時奇合

大中位能宣

鳴るはさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

三三三

花の色はさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

延喜寺の東宮の屏風

風吹くはさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

同 二月の月宿るはさうらりさうらりと

三三三

常よりさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

同 二月の月宿るはさうらりさうらりと

三三三

花の色はさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

三三三

天曆の神時奇合

延喜寺の東宮の屏風

風吹くはさうらりさうらりと花をまじりてはさうらりさうらりと

紫の春候枝の梢ふいとくはるの雲とりのしるえはそを多分
定む時時記名合ふてはるの雲乃高候る時

小野宮大臣

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

秋のついでに
秋のついでに

秋のついでに

三平... 夜半... 三平... 夜半... 三平... 夜半...

寛和三年内裏歌合

於人... 神... 於人... 神... 於人... 神...

廿四のみよ家持歌合

山... 人... 山... 人... 山... 人...

三曆内侍時の歌合

三... 曆... 三... 曆... 三... 曆...

伊勢... 天曆... 伊勢... 天曆... 伊勢... 天曆...

小... 室... 小... 室... 小... 室...

源公忠朝臣

山... 路... 山... 路... 山... 路...

延喜... 清... 延喜... 清... 延喜... 清...

此... 里... 此... 里... 此... 里...

清人

三月... 日... 三月... 日... 三月... 日...

大中... 后... 大中... 后... 大中... 后...

三... の... 三... の... 三... の...

延喜... 御... 延喜... 御... 延喜... 御...

三... の... 三... の... 三... の...

清人

三... の... 三... の... 三... の...

延喜... 御... 延喜... 御... 延喜... 御...

三... の... 三... の... 三... の...

延喜... 御... 延喜... 御... 延喜... 御...

三... の... 三... の... 三... の...

延喜... 御... 延喜... 御... 延喜... 御...

三... の... 三... の... 三... の...

延喜... 御... 延喜... 御... 延喜... 御...

三... の... 三... の... 三... の...

延喜... 御... 延喜... 御... 延喜... 御...

三... の... 三... の... 三... の...

延喜... 御... 延喜... 御... 延喜... 御...

三... の... 三... の... 三... の...

延喜... 御... 延喜... 御... 延喜... 御...

三平... 夜半... 三平... 夜半...

三平... 夜半... 三平... 夜半...

三平... 夜半... 三平... 夜半...

古今
万葉集
新古今
古今和歌集

秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

古今
万葉集
新古今
古今和歌集

秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

古今
万葉集
新古今
古今和歌集

秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

古今
万葉集
新古今
古今和歌集

秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

おほあきと秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

拾遺和歌集卷第三

秋

古今
万葉集
新古今
古今和歌集

秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

古今
万葉集
新古今
古今和歌集

秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

古今
万葉集
新古今
古今和歌集

秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

古今
万葉集
新古今
古今和歌集

秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

古今
万葉集
新古今
古今和歌集

秋の夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
あまの夕舟の身を結いあきて甘きあまの年と四いなる時
伊勢

五十年 此の川の流る結ぶは社風の秋にちかき人より海に

流る社に

好風を吹く文のあは乃川にささる浪の立居をきて

柿本人麿

歌

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる
あは乃川にささる流るのうりよりあは乃川にささる
あは乃川にささる

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

湯原王

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

右の河原清之原の家風

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

右の河原清之原の家風

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

七の原申

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

あは乃川にささるうりより流る君よりあは乃川にささる

本朝文録

小野良太

作十

五十年

秋高のこゝろ乃きよあせりまゝの歳世はそつて潤く感ん
歎~~~~~
こしき

長月のこゝろぬまはほむさくれ雲のついでさくさくけり奉
君大將定國家の席風

あまのつらさぬの川原さきぬ
ふのまはれ雲の色さきぬ
是れ在時時席風
~~~~~  
つゆ中

風をさきぬ  
三百六十首の中  
曾根好忠

神さきのむらりれり  
~~~~~  
大中臣能宣

秋風をさきぬ
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

秋高のこゝろ
~~~~~

秋高のこゝろ  
~~~~~

秋高のこゝろ
~~~~~



名とすけは... 時々色づり...

東山... 清信りる

このふり... 茶の造り...

天曆時... 大井川...

源光朝臣大綱言

そみら... 源光

源光

枝... 源光

源光

河... 源光

源光

水... 源光

源光

二... 源光

惠慶法師

い... 源光

源光

い... 源光

源光

龍... 源光

源光

社... 源光

源光

社... 源光

源光

社... 源光

源光

社... 源光

源光

社... 源光

源光

大徳二年... 源光

源光

源光

源光

源光

源光

源光

源光

梅香花はなほうらなふ山はととらぬ縁のあま〜さりまの  
大井川はととらぬ縁のあま〜さりまの  
壬生忠孝年

此のふせのあま〜さりまの  
大井川はととらぬ縁のあま〜さりまの

色は花のほろろ新大井川ととらぬ縁のあま〜さりまの

歌三〜三

まの〜さりまの〜ぬ縁のあま〜さりまの〜さりまの  
さりまのほろろ〜さりまの〜さりまの〜さりまの

早の〜さりまの

此のふせのあま〜さりまの  
大井川はととらぬ縁のあま〜さりまの

白梅はととらぬ縁のあま〜さりまの〜さりまの

拾遺和歌集巻廿四

冬

延喜御時内侍のうき宿の扇風

紀貫之

延喜御時内侍のうき宿の扇風

豆の〜さりまの〜さりまの〜さりまの〜さりまの

寛和二年清原殿の法師のうき宿の扇風

紀貫之

寛和二年清原殿の法師のうき宿の扇風

細代木はととらぬ縁のあま〜さりまの〜さりまの

三〜三 侍の目

は〜は

か〜さりまの〜さりまの〜さりまの〜さりまの

歌三〜三

清人〜は

神はととらぬ縁のあま〜さりまの〜さりまの

あま〜さりまの〜さりまの〜さりまの〜さりまの

柿本人麿

此のふせのあま〜さりまの  
大井川はととらぬ縁のあま〜さりまの





歌三つに

たぐみ

年始まこころはむらさきなり ありの年れは昔はらつ  
入道標政家席風あひのこころ

百代  
山王  
山王  
山王

三浦をばねの茶をり 夕暮のまはつ せはせしる ちか  
い里の夕陽は ぼんぼり せきん せきん せきん せきん  
人まら

百代  
山王  
山王  
山王

白雲の霞 夕陽のまはつ せきん せきん せきん せきん  
古木ね定國家

百代  
山王  
山王  
山王

冷泉院御時席風  
人まら 春のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん

百代  
山王  
山王  
山王

梅のまはつ せきん せきん せきん せきん  
席風のまはつ せきん せきん せきん せきん



奉教  
四十年の昔に  
後醍醐天皇  
御代に  
御成吉思汗  
の御代に  
御成吉思汗  
の御代に  
御成吉思汗  
の御代に

天曆八の初四十日成吉思汗の御代に  
金帳を南命経ハ巻と云き侍奉し奉りて清泰故  
乃志願しんをせしすを命りしをきりそのすを  
れ志願しんをせしすを命りしをきりそのすを  
らひしり

心算の心乃海根に於て居ては世をわたりて祈り候ふ事

仲業法

一婦より代をて候枝をてははらひし君のよきい  
清慎公は十貫一侍り候乃扇風

海宮内侍

色之ぬきと竹の末乃をといひきえと君のよきを  
おれ習う竹乃枝とほりて侍り

大中臣頼基

一婦より代をて候枝をてははらひし君のよきい  
清慎公は十貫一侍り候乃扇風

とすけ

君の代は何も入らざる所の君の御代に  
昔柳乃より候枝とほりて侍り

少孫より

一婦より代をて候枝をてははらひし君のよきい  
清慎公は十貫一侍り候乃扇風

とすけ

君の代は何も入らざる所  
一婦より代をて候枝をてははらひし君のよきい  
清慎公は十貫一侍り候乃扇風

小野好吉朝臣

一婦より代をて候枝をてははらひし君のよきい  
清慎公は十貫一侍り候乃扇風

源三忠節臣

一婦より代をて候枝をてははらひし君のよきい  
清慎公は十貫一侍り候乃扇風







五のりいひあま  
のりいひあま

歌~~~~~

つたがま  
つたがま  
つたがま  
つたがま

御製

君代を長月とて思ふはいつと別乃のりいひあま

十月廿日(あまのりいひあま) 多々

あまのりいひあま

海原  
あまのりいひあま  
あまのりいひあま

別語を想ふるもせいのりいひあまのりいひあま

あまのりいひあま

清人~~~~~

あまのりいひあま

あまのりいひあま

あまのりいひあま

赤津衛門

あまのりいひあま

あまのりいひあま

あまのりいひあま

あまのりいひあま

あまのりいひあま







大鏡  
手紙  
近衛

思ひしを記さねのらるる様へ  
さうさしは侍りて後いひおせして侍るの

君へ侍りてのあはれなるや  
贈太政大臣

万八分金  
御上  
御下

あはれなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの

御上  
御下

波のよきなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの

あはれなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの

あはれなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの

拾遺抄の御集巻七

物名

紅梅

淡人

あはれなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの

あはれなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの

あはれなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの

あはれなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの

あはれなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの

あはれなるやの侍りてのあはれなるや  
侍りて侍るの



古作の...  
五の...  
六の...  
七の...  
八の...  
九の...  
十の...

丹波志紀評  
蘇我神社

あまの...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

初巻の...  
卯不...

能開か...

方...

...

...

...

...

...

...

大...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...

...



勢不此非在ト耳  
文一初似破る  
才合本意有る  
等初述ト以此  
等才公本在

果才公ト  
カノコト  
トノコト  
トノコト

極所  
極所  
極所

才公の  
才公の  
才公の

のりなりとて  
仙慶法一

子母南よ  
すけえ

い  
すけえ

南  
すけえ

い  
すけえ

池  
すけえ

目  
すけえ

い  
すけえ

初名  
初名

人  
人

古今  
古今

初名  
初名

初名  
初名

初名  
初名

日  
日

あ  
あ

い  
すけえ

い  
すけえ

い  
すけえ

い  
すけえ

い  
すけえ

い  
すけえ

い  
すけえ

い  
すけえ

い  
すけえ





拾遺和歌集卷第八

雜

いとをばりて

中務卿具子親王

雪より物さへもよそをばりてはなれぬとて

清徳の風

清徳

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

女はいとをばりてはなれぬとて

大江為基

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

法師のそとに

藤原公光

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

冷泉後の東宮の御

いとをばりてはなれぬとて

藤原仲文

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

いとをばりてはなれぬとて

伊勢

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

いとをばりてはなれぬとて

素性法師

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

いとをばりてはなれぬとて

はなれぬとて

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

いとをばりてはなれぬとて

いとをばりて

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

いとをばりてはなれぬとて

いとをばりて

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

いとをばりてはなれぬとて

いとをばりて

いとをばりてはなれぬとてはなれぬとて

いとをばりてはなれぬとて

いとをばりて



山内...  
...

百... 池...  
おれ... 大井川...  
...

大井川...  
...

佐吉...  
...

五葉...  
...

海...  
...

物...  
...

おの...  
...

あ...  
...

い...  
...

河...  
...

源...  
...

い...  
...

い...  
...

い...  
...

い...  
...

...

...

...

...

...



大木加茂  
おとこを待たせし  
かたきりく人  
かたきりく人  
かたきりく人

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

大木加茂  
おとこを待たせし  
かたきりく人  
かたきりく人  
かたきりく人

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

大木加茂  
おとこを待たせし  
かたきりく人  
かたきりく人  
かたきりく人

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

大木加茂  
おとこを待たせし  
かたきりく人  
かたきりく人  
かたきりく人

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

大木加茂  
おとこを待たせし  
かたきりく人  
かたきりく人  
かたきりく人

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

歌  
源景相

源景相

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし

おとこを待たせし  
ゆげれりし地  
家の命を  
神明寺の  
おとこを待たせし













本為定信本朝の御方

國司の御方御方

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人  
大隅はくしの名に御方侍りたる御方なり  
まゝに御方侍りたる御方なり  
まゝに御方侍りたる御方なり

旋歌

まは後をさるのけむいひのそら時まころまゝに御方なり

柿本人まろ

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人  
大隅はくしの名に御方侍りたる御方なり  
まゝに御方侍りたる御方なり  
まゝに御方侍りたる御方なり

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人

本朝の御方御方

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人

源

本朝の御方御方

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人

源

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人

あはれなりやまゝ人吉野の中より死すらん人











五和草 葉を言止唐  
天降 湯山 今皇國天下堂

恒徳名家の後々

源魚陸

神標 湯山 今皇國天下堂

出後の三和さくき成ゆん神さしよる浦乃むり松

神代天下云然三彼代多者

栗田若大臣多陸まのり松二種一なる不

管火之神及鐵聲 和神復

平祐 尊

又云草本成能言識

細引さくきなる不

草草柄本根

少極すもさくき海地ありと細八神さくき引さくき

草草柄本根

りともさくき神乃さくき人命さくき後々為さくき思さくき

草草柄本根

ふ多極神さくき引さくき和神年経て富士山さくき

草草柄本根

安和元年 大嘗會 風信さくき此山 近江

草草柄本根

君代の生極のさくきしさくきゆさくき地雲のなるゆさくき

草草柄本根

さくきあ生極のさくきさくきさくきたり かつ玉君さくき

草草柄本根

いさくきさくき

草草柄本根

うさくきさくき若代さくきさくきさくき代さくき

草草柄本根

みさくき山

よさくき

あま極さくきさくき乃極茶さくきさくきさくき末乃代さくき

あ代のもさくきあ極さくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

さくきは代さくきさくきさくきさくきさくきさくき

天和元年土著  
此後の事  
の事

天和元年大嘗會の儀  
の事

いづれに  
いづれに  
いづれに

いづれに  
いづれに  
いづれに

いづれに  
いづれに  
いづれに

いづれに  
いづれに  
いづれに

いづれに  
いづれに  
いづれに

いづれに  
いづれに  
いづれに

まゝ此の  
事  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事

天和元年  
の事



